付篇3

防府市多々良廃寺跡採取の古代瓦

水久保　祥子

1. はじめに

当館では、小野忠凞氏によって昭和31(1956)年5月に防府市多々良二丁目付近で採取された瓦を所蔵している。採取された場所は、周防国府の北限域より約200m北に位置する多々良山丘陵の末端の斜面にあたるとされるが発掘調査は行われておらず詳細は不明で、現在ではその地点を特定することも難しい。当館に残る採取地点を示す地図には、多々良廃寺跡として周知されている範囲の東端に印が付けられている(図44)。

採取時の状況としては、小野氏らが防府地域を踏査した際に、当時の山口大学の学生が散布した瓦と土器を発見し、その一部を標本として採取したとのことである。小野氏によると、瓦が採取された当時は礎石とみられる花崗岩塊があり、それとともに瓦や土師器、須恵器が押し流されて散乱している状態であったという。これら遺物については丘陵上の平坦面から流されてきたとみている。また、瓦を白鳳期に比定し、周防国府の設置よりも遡る「律令時代初期の在地豪族の氏寺ではないか」としている。[註1]

防府市の三浦家文書乾元2(1303)年の平子重有和与状に、平子氏の荘園「多々良庄」内の「法興寺」の名があり、瓦が採取された場所をその所在地と推定する説もある。しかし、瓦とは大きな時期差があるため、採取された瓦の時代の寺院を指すときには一般的に「多々良廃寺」の名称が使用されている。[註2] なお、本稿では埋蔵文化財包蔵地として周知されている「多々良廃寺跡」の名称を用いている。

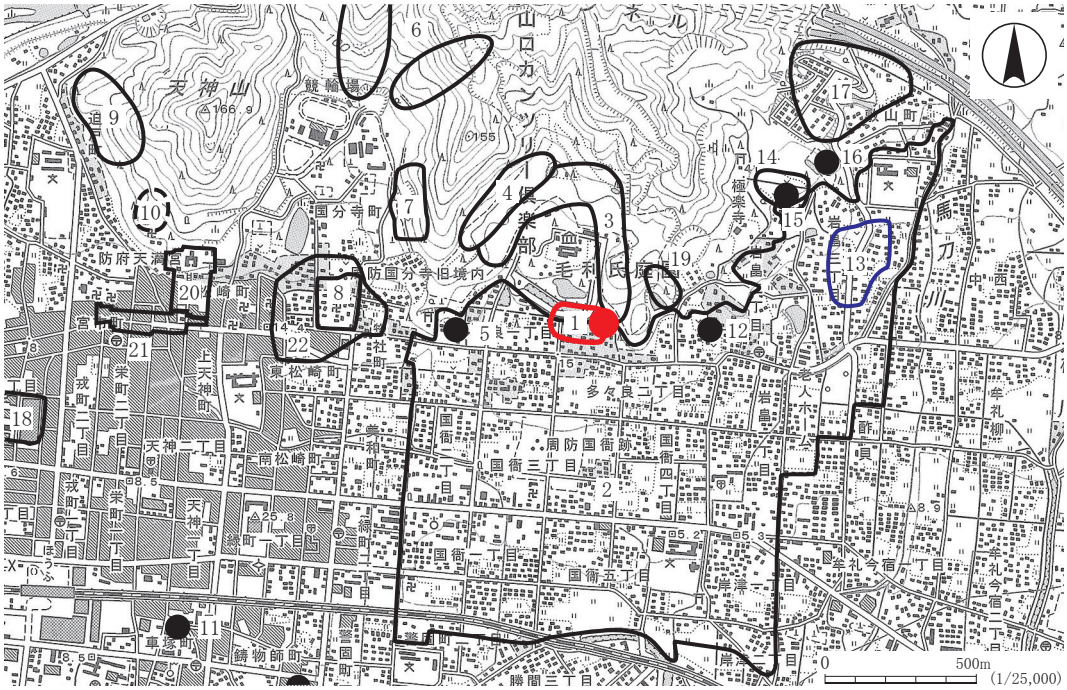
これまで各書で資料が紹介されており、年代観等についても概ね見解が示されているが、資料を所蔵している当館が正式に報告したことがないため、所蔵品の確認と整理の意味もかねて、ここで改めて多々良廃寺跡の採取瓦を紹介することとした。

2. 既往の多々良廃寺跡採取瓦についての報告

当館で所蔵している瓦は、忍冬蓮華文軒丸瓦1点、唐草文軒平瓦1点、平瓦5点、丸瓦2点である。そのうち忍冬蓮華文軒丸瓦については、昭和43(1968)年に奈良国立博物館で開催された『飛鳥・白鳳の古瓦展』に出展されており、3種に分類されたうちの第1様式の一つとして紹介されている。[註3] キャプションは、「山口・周防国府」となっている。昭和50(1975)年には中野孝之氏が軒丸瓦を山口県内出土の白鳳・奈良時代の軒瓦の一つとして紹介しており、文様の状況から7世紀後半の所産としている。[註4]

また、多々良廃寺跡の瓦は、小野氏が採取した昭和31(1956)年の同年8月に佐伯敬紀氏によっても採取されており、それは山口県立山口博物館(以下、山口博物館)に所蔵されている。昭和62(1987)年には山口大学人文学部考古学研究室から『呉町廃寺発掘調査報告書』の付篇として、それまで未発表であった山口博物館所蔵の軒丸瓦片2点と平瓦1点、当館所蔵の平瓦4点、丸瓦2点が掲載されている。軒丸瓦については、文様の意匠や中房の大きさなどから7世紀第3四半期に比定されている。軒平瓦についての記載はなく、「現状では軒平瓦は採集されておらず、本来存在しなかった可能性も考えられる」との記述がある。[註5]

平成16(2004)年刊行の『防府市史』では、当館と山口博物館が所蔵する資料が併せて掲載されている。[註6] また、多々良廃寺跡と同様の文様をもつ軒丸瓦が出土する周防国府跡天田地区[註7](以下、旧天田遺跡)との関係についても言及している。旧天田遺跡出土軒丸瓦は、多々良廃寺跡採取のものと比較して



1. 多々良廃寺跡　2. 周防国府跡　3. 多々良ゴルフ場古墳群　4. 多々良ゴルフ場遺跡　5. 惣社古墳
6. 多々良寺山古墳群　7. 多々良寺山遺跡　8. 周防国分寺　9. 迫戸古墳　10. 天神山古墳　11. 車塚古墳
12. 岩畠古墳群　13. 周防国府跡天田地区（旧天田遺跡）　14. 切石遺跡　15. 岩畠宇津和古墳　16. 岩畠経塚
17. 大将軍遺跡　18. 八王子遺跡　19. 峠ケロ遺跡　20. 防府天満宮　21. 宮市まちなみ遺跡
22. 周防国分寺関連遺跡　●瓦採取地点

図 44　多々良廃寺跡周辺遺跡分布図

国土地理院発行2万5千分の1地図「防府」を用いて作成

文様が明瞭で焼成状態が良く、多々良廃寺跡採取瓦は焼成不良品ともみえることから、多々良廃寺跡とする瓦採取地点は瓦窯跡である可能性が指摘されている。

3．多々良廃寺跡採取資料（図45～47、写真79～81、表24）

当館では軒丸瓦1点、軒平瓦1点、平瓦5点、丸瓦2点を所蔵している。「多々良山」との注記があり、そのうちの平瓦2点と丸瓦1点には「1956．5．27」と採取日の日付も明記されている。資料館の館蔵品リストの遺跡名の欄には「多々良ゴルフ場古瓦遺跡」、出土地点として「多々良山」が登録されている。また、別コンテナ保管のもので、出土年月日が同日で出土地点が「多々良山」として登録されている須恵器片が1点ある。注記されている日付等から瓦とともに採取された土器の一つとも考えられるが、周知遺跡名の登録がなされておらず瓦とは別項目で登録されているため、本稿では取り上げていない。

1～5は平瓦。凸面に格子叩き、凹面に布目痕が残るもの（1～3）と、凹面に同心円当て具痕が認められるもの（4・5）とに分けられる。

1・2は凹面に桶状模骨痕と布目痕が残り、凸面は格子叩きで仕上げている。1は側面の凹面側に分割破面、凸面側に分割截面が確認でき、狭端面はナデて仕上げられている。凸面の格子は0.4～0.5㎝四方の正格子叩きと一辺0.7㎝前後の斜格子叩きが確認できる。2は側面の凹面側に分割截面、凸面側に分割破面が認められる。凸面には0.4㎝×0.7㎝程度と0.4～0.5㎝の格子が認められる。2の凹面には、布の末端、分割界線も残る。**3**は凹面に布目痕、凸面に一辺0.4～0.6㎝の格子叩きが残り、側縁の凹面側に分割截面、凸面側に分割破面が確認できる。全体的に他の平瓦と比べるとやや薄手である。

4の凹面には布目痕と補足の叩き締めの同心円当て具痕が残っている。凸面は、全体的に摩滅しているため不明瞭ではあるが、縦方向に筋状の凹線が確認できる。**5**の凸面は叩きの痕跡がナデ消されて

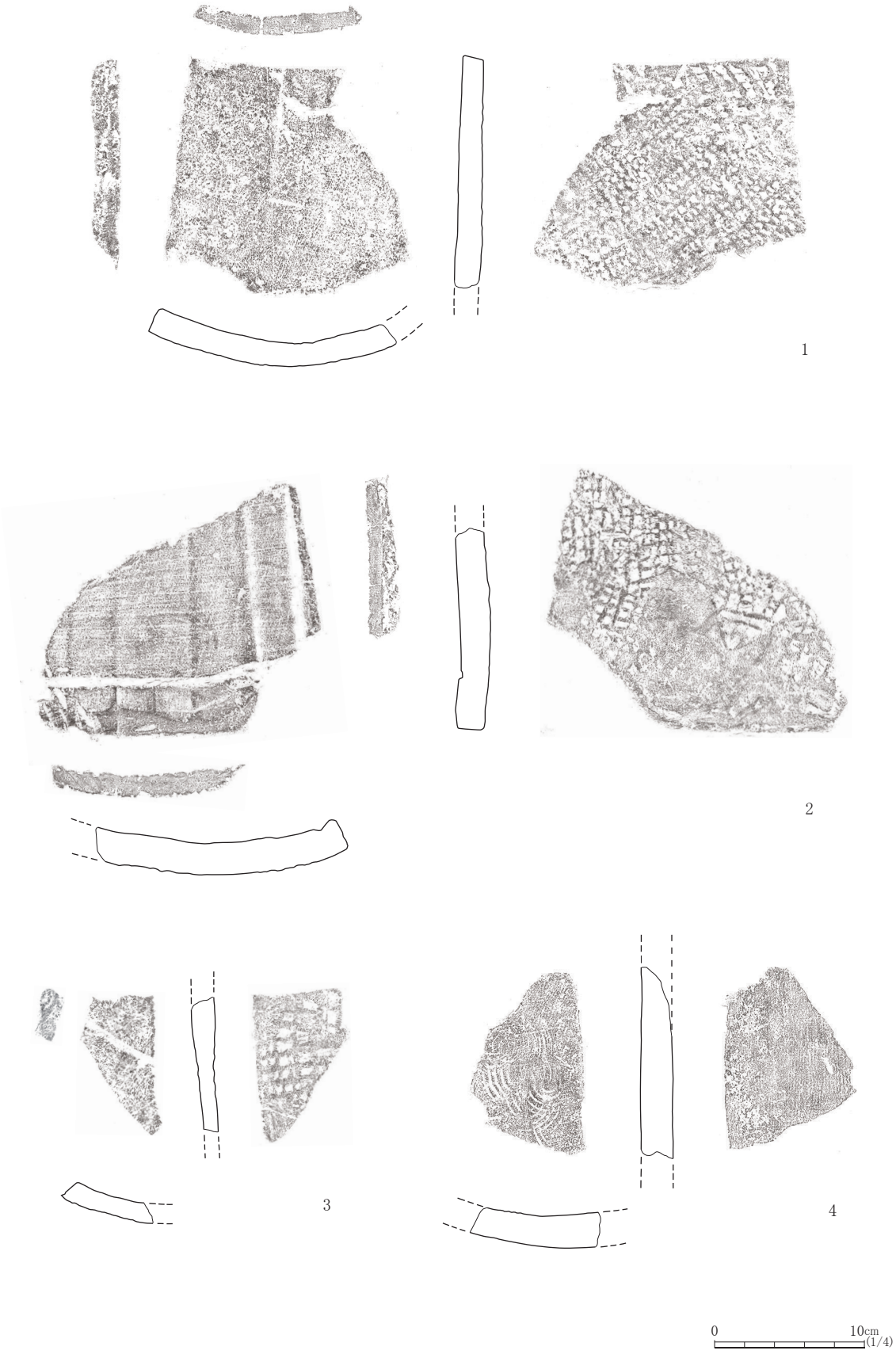


図 45 多々良廃寺跡採取瓦実測図①

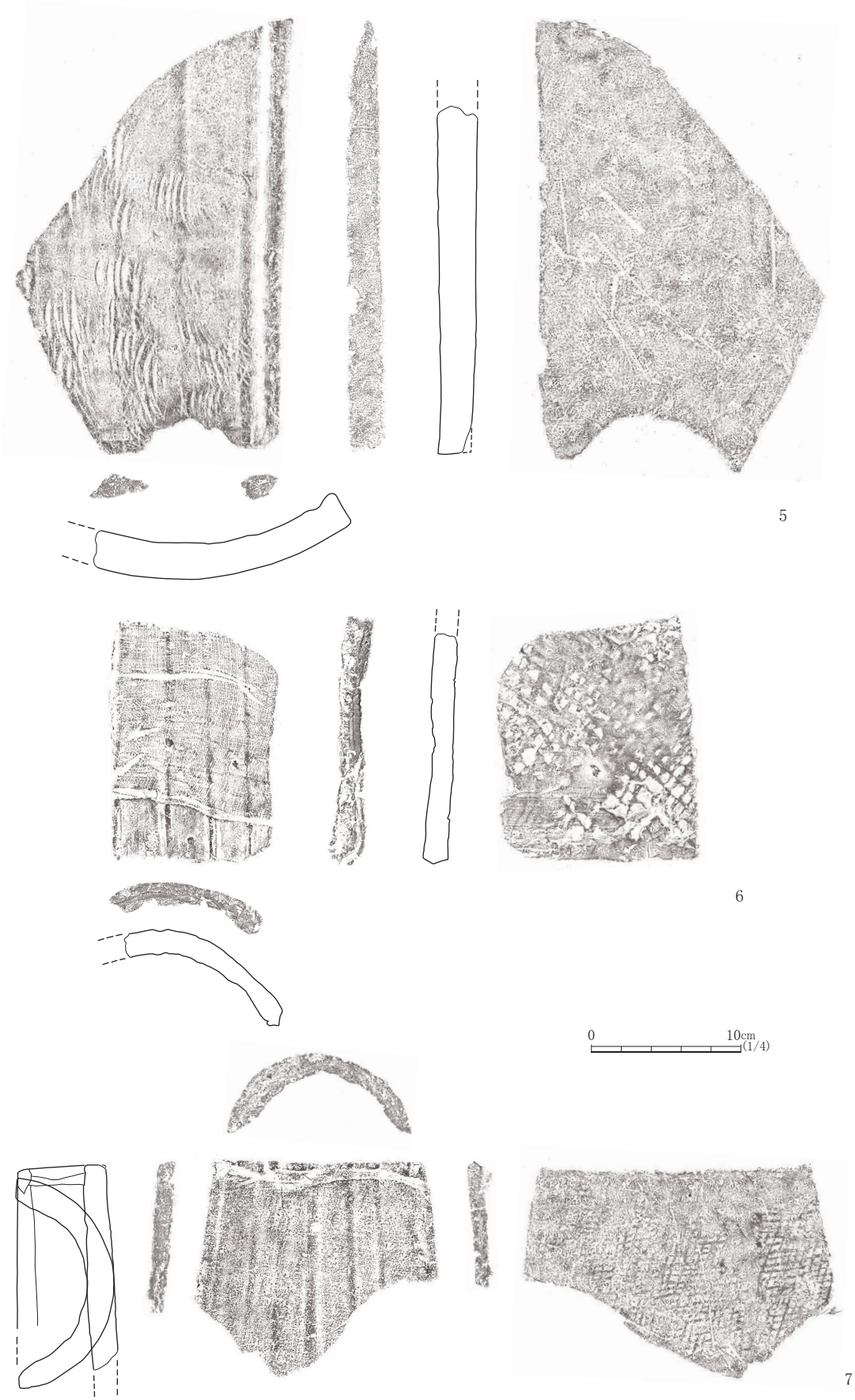


図 46　多々良廃寺跡採取瓦実測図②

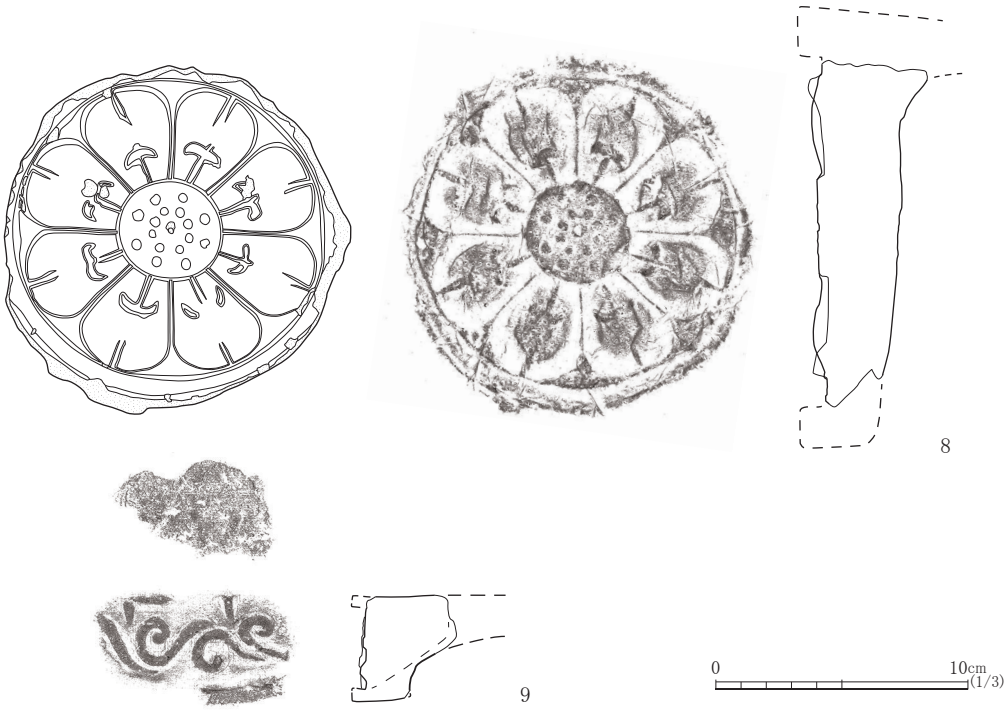


図 47　多々良廃寺跡採取瓦実測図③

いて無文で、凹面には下半部に同心円当て具痕がある。また、拓本で表現しきれなかったが、凹面側の側面付近や分割界線の一部に布目痕がかすかにみられる。分割界線には、撚紐状の痕跡が認められる。

6・7は丸瓦。ともに凹面に桶状模骨痕と布目痕が残る。6の凸面側の下半部は横方向のヘラケズリで整えられており、広端面は断面V字形に面取りされている。凸面の格子叩き目は重複叩きと表面の摩耗によって読み取りづらいが、0.5～0.6㎝四方とみられる。凹面には布の末端がみえ、側面には凹面側に分割截面、凸面側に分割破面が確認できる。7は行基式の丸瓦。凸面は一辺0.4～0.5㎝の斜格子叩きが施されており、両側面はケズリで整えられている。

8は忍冬蓮華文軒丸瓦。八葉の蓮弁の子葉にあたる部分に三葉の忍冬文を施す。忍冬文は左右の葉が小さくまとまっているのに対して中央の葉となる部分が蓮弁の先端まで軸線のようにのびており、独特な意匠となっている。中房の蓮子は1＋8＋8で、蓮弁に対応して配置されている。資料は丸瓦部との接合部分で破損しており外縁を欠失しているが、山口博物館所蔵品と旧天田遺跡出土の同文軒丸瓦から素縁であることがわかる[註8]。外縁が残る資料を参考に復元すると、瓦当面径は17㎝弱となる。

9は段顎の唐草文軒平瓦。防府市史でも触れられているが、形態等からみて前述の軒丸瓦と組み合うものではないとみられる。

4. 忍冬蓮華文について

忍冬蓮華文軒丸瓦は蓮華文に忍冬文を加飾したもので、3種に分類されている。第1様式は、広闊薄肉な六葉蓮華文の各蓮弁中に忍冬文を配したもの、第2様式は、四葉の蓮華文の弁間に忍冬文をおくもの、第3様式は、八葉素弁蓮華文の弁間に小形の忍冬文と円文を配したもので、第1様式は百済様式、第2・第3様式は高句麗様式の影響が強いとみられている[註9]。

多々良廃寺跡採取の軒丸瓦は蓮弁中に忍冬文を配するものとしては第1様式となるが、蓮弁が八葉で第1様式の他の例とは文様の意匠が異なっている。他例の蓮弁は薄肉で立体的な忍冬文が施されているのに対し、多々良廃寺跡例の蓮弁は肉厚で、摩耗によるところもあろうが忍冬文自体はあまり立体的ではない。また、中央の葉が軸線のように伸びている意匠は日本国内の出土品の中では他に例をみない。この文様は、百済の軍守里廃寺出土の箱形文様塼にある忍冬蓮華文に類似しているとして、国内の伝播ではなく朝鮮半島からの直接の渡来である可能性が示されている。[註10] 箱形文様塼については7世紀前半頃と推察されている。[註11] 多々良廃寺跡例については中房の蓮子が二重に巡っていることなどからしても7世紀第3四半期以降とみられる。

5. 多々良廃寺跡の所在地について

多々良廃寺跡は、瓦が採取されたことをもってその存在を想定されているのみで、詳細については不明である。瓦の採取地点については明確に限定できないものの、丘陵の斜面であることは記されている。採取地点周辺に廃寺が存在したとすれば斜面の上部、丘陵上と考えるのが自然であろうが、先述したように、当館で所蔵している軒丸瓦は旧天田遺跡出土のものと比較して焼成不良品と見受けられ、瓦が採取された場所は瓦窯跡であった可能性が指摘されている。

旧天田遺跡からは複数の溝などが検出されており、墨書土器をはじめ、土師器、須恵器、金属製品、瓦、木製品などが出土している。また、旧天田遺跡の実態については未だ不明ではあるものの、周防国府跡の中でも瓦の出土量が群を抜いて多いことが報告されている。出土瓦には忍冬蓮華文軒丸瓦だけでなく、周防国分寺に類似する軒丸瓦や長府国府・国分寺推定地出土例に類似する軒平瓦なども出土している。旧天田遺跡周辺に多々良廃寺跡の存在を想定して、旧天田遺跡を含む多々良山南東一帯に周防国分寺整備以前の施設群が存在していた可能性も考えられている。[註12]

旧天田遺跡では多々良廃寺跡と時期が重なる7世紀後半代の遺物が認められているが、当該期の遺構は検出されていない。寺院跡と結びつけられる建物跡等は確認されていないが上述のように群を抜く瓦の出土があること等から、旧天田遺跡を中心とした周辺一帯の調査が多々良廃寺跡の所在地その他の解明にも大きく関わってくるものと思われる。今後の調査の進展に期待したい。

【註】

1) 小野忠凞(1985)『山口県の考古学』, 吉川弘文館, 東京

2) 防府市(2004)「多々良廃寺」,『防府市史　資料Ⅱ　考古資料・文化財編』, 山口

3) 奈良国立博物館(1970)『飛鳥・白鳳の古瓦』, 奈良

4) 中野孝之(1975)「山口県出土の古瓦－白鳳・奈良時代の軒瓦について－」, 山口県地方史学会(編)『山口県地方史研究』第33号, 山口

5) 吉田寛・古賀信幸(1987)「防府市多々良廃寺採集の古瓦」,『呉町廃寺発掘調査報告書』(山口大学人文学部考古学研究室研究報告第4集), 山口

6) 防府市(2004)「多々良廃寺」,『防府市史　資料Ⅱ　考古資料・文化財編』, 山口

7) 佐々木達也(2005)「天田遺跡試掘調査」, 防府市教育委員会(編)『平成15年度防府市内遺跡発掘調査概要』(防府市埋蔵文化財調査概要0501), 山口

防府市教育委員会(2006)「周防国府跡第150次調査(旧天田遺跡)」, 防府市教育委員会(編)『平成16年度防府市内遺跡発掘調査概要』(防府市埋蔵文化財調査概要0601), 山口

防府市教育委員会(2006)「概況」, 防府市教育委員会(編)『平成16年度防府市内遺跡発掘調査概要』(防府市埋蔵文化財調査概要0601), 山口

天田遺跡は、2003年度の調査成果を受けて周防国府関連遺跡との認識から、周防国府跡天田地区と呼称が変更されている。

8) 吉田寛・古賀信幸(1987)「防府市多々良廃寺採集の古瓦」,『呉町廃寺発掘調査報告書』(山口大学人文学部考古学研究室研究報告第4集), 山口

佐々木達也(2005)「天田遺跡試掘調査」, 防府市教育委員会(編)『平成15年度防府市内遺跡発掘調査概要』(防府市埋蔵文化財調査概要0501), 山口

9) 註3と同じ

10) 奈良国立博物館(1970)『飛鳥・白鳳の古瓦』, 奈良

防府市(2004)「多々良廃寺」,『防府市史　資料Ⅱ　考古資料・文化財編』, 山口

11) 亀田修一(1993)「百済の瓦・新羅の瓦」, 仏教藝術學會(編)『仏教藝術』209, 東京

12) 佐々木達也(2005)「天田遺跡試掘調査」, 防府市教育委員会(編)『平成15年度防府市内遺跡発掘調査概要』(防府市埋蔵文化財調査概要0501), 山口

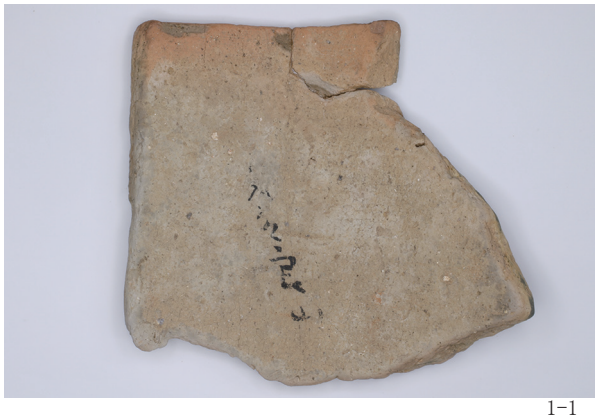
【文献】

佐原真(1972)「平瓦桶巻作り」,『考古学雑誌』第58巻第2号, 東京

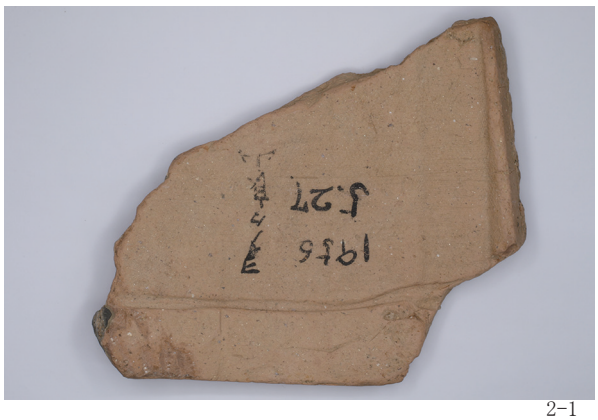
篠宮正(1985)「忍冬蓮華文軒丸瓦小考」,『滋賀考古学論叢』第2集(江波洋先生還暦記念論集), 滋賀考古学論叢刊行会, 滋賀

滝本正志(1983)「平瓦桶巻作りにおける一考察－粘土円筒分割のための指標の種類について－」,『考古学雑誌』第69巻第2号, 東京

藤井寺市教育委員会(1987)『藤井寺市及びその周辺の古代寺院(上)』(藤井寺の遺跡ガイドブックNo.2), 大阪


1-1

1-2


2-1

2-2

3-1

3-2

4-1

4-2

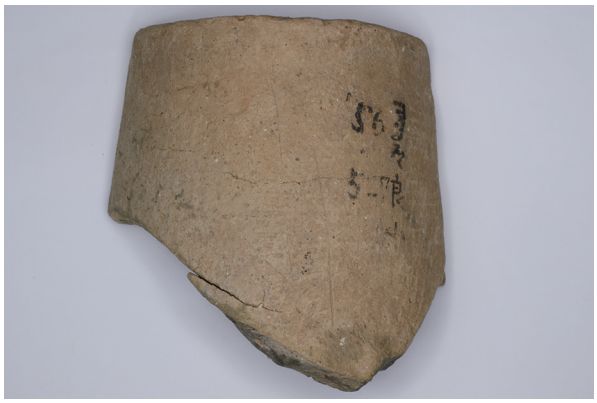
5-1

5-2

写真79　多々良廃寺跡採取瓦①

6-1

6-2



7-1

7-2

9-1

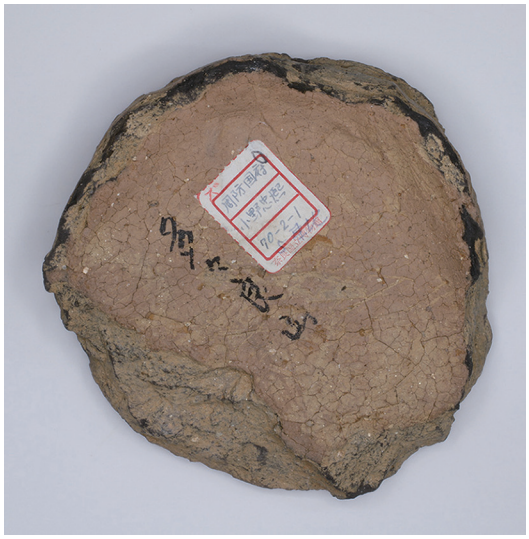
9-2

9-3

9-4

写真80　多々良廃寺跡採取瓦②

8-1



8-2

8-3

8-4

8-5

写真81　多々良廃寺跡採取瓦③

表24　出土遺物(瓦)観察表

法量(　)は残存値

遺物番号	コンテナ・袋	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	色調 ①凸面　②凹面　③瓦当面	胎土	備考
1	コンテナ93・袋49	平瓦	①(15.6)　②(17.5) ③(1.8)　④534.63	①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/4) 橙色(7.5YR7/6)	0.5～3㎜φの長石・石英・チャート含む	
2	コンテナ93・袋49	平瓦	①(15.0)　②(18.4) ③(2.2)　④824.13	①②橙色(7.5YR7/6)	0.5～2㎜φの長石・石英含む	
3	コンテナ93・袋49	平瓦	①(10.0)　②(6.1) ③(1.6)　④79.49	①②橙色(5YR6/8)	0.5～3㎜φの長石・石英・チャート含む	
4	コンテナ93・袋49	平瓦	①(12.6)　②(8.9) ③(2.3)　④300.39	①黄灰色(2.5Y4/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	0.5～1㎜φの長石・石英含む 0.5～1㎝のチャート含む	
5	コンテナ93・袋49	平瓦	①(29.8)　②(18.5) ③(2.75)　④1685.23	①にぶい黄橙色(10YR6/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.5～3㎜φの長石・石英・チャート・くさり礫含む	
6	コンテナ93・袋49	丸瓦	①(18.0)　②(17.0) ③(1.75)　④457.56	①②橙色(5YR6/6)	0.5～4㎜φの長石・石英含む	
7	コンテナ93・袋49	丸瓦	①(14.8)　②(14.2) ③(1.8)　④614.34	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②明黄褐色(10YR7/6)	0.5～3㎜φの長石・石英・くさり礫含む	
8	コンテナ93・袋49	軒丸瓦	①(13.9)　②(13.6) ④754.36	③灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～2㎜φの長石・石英含む	
9	コンテナ93・袋49	軒平瓦	①(4.2)　②(8.7) ④153.55	③にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5～2㎜φの長石・チャート含む	